

牧野(淀川上流)探鳥会 2016年5月度

2016.5.1 第1日曜日)9:00~14:00

日本野鳥の会大阪支部

担当 南 茂夫、高井 常之、前田 初雄、甲田 照二、斎藤 健、西脇 淳浩、平 軍二(☎090-6901-1425)

1. 先月(4月)の探鳥会から



2ヶ月続いでのヒクイナ (小谷昭彦氏)

穂谷川沿いで先月確認したヒクイナ・クイナ、そして、地味な褐色のオオジュリンがヨシ原に、真っ赤に春を装ったベニマシコがイノコズチの実に来ているなど、幸先よくスタートした。コースではウグイス・シジュウカラが切れ目なく、また冬鳥がほぼ残っていた上、夏鳥のツバメ、さらに春を歌うコジュケイなど、トータル56種も観察した。そんな中で人気を集めたのはキジ、声そして姿に参加者の人気を集めた。2月、3月と非常に多かった大型の小鳥(ヒヨドリ+ムクドリ+ツグミ)が約1/5に激減(それでも200羽台)していたが、コースにある数百本のセンダンの実がほぼなくなっただけと予想され、餌の無い所に鳥がいないことが証明された。



姿を見せたキジ雄 (小谷昭彦氏)

2. 今月の鳥 キジ

4月は期待していたキジが多く、雄叫びは何回も、姿も見ることができた。昔は里地里山の周辺で普通に見られた鳥であるが、草叢が少なくなり、キジが少なくなっている。キジは「桃太郎の家来」をつとめ、日本の「国鳥」に指定された由緒のある鳥であるが、その一方で狩猟対象となっていて、毎年数万羽のキジが狩猟用として放鳥されるという、矛盾する扱いを受けている。牧野探鳥会のコースは河川敷なので、キジはどこにでもいるが、特に牧野ゴルフ場と探鳥コースの緊急用車道との間に湿地・草原・樹林があり、キジが好む環境となっている。今年は緊急車道の両サイドの木が5m幅で切られる予定のため、キジの好きな草叢が増えるので、更にキジの個体数が増えるものと期待している。

3. 「トイレ」・「自転車の危険」

牧野探鳥会は他に比べ鳥が多いけれども、「**トイレが無い・自転車が危ない**」の二重苦が、アキレス腱になっています。

探鳥コースでは猛スピードで自転車が通過するので、**自転車にぶつかると怪我をして痛い目に合うのはバードウォッチャーです**。保険に入っても痛みは補償されませんので、鳥を見て「あそこに鳥」の声で、道を**左⇄右**に移動するときは、常に**前後左右**に目を配り、「**猛スピードで通過する自転車**



160403 今日も次々自転車通過

2016/04/03 10:26

車から自分を守る」ようお願いします。

4. 牧野探鳥コースの樹木伐採

牧野探鳥会はコースに河川敷なのに樹林があるため、冬は林の鳥も多く、今冬は**12月49種、1月51種、2月50種、3月53種、4月56種**も観察できた。スタート～フィニッシュ間に鳥の切れ間が無いと言う、ぜいたくな探鳥地となっている。探鳥コースは河川敷の**緊急用車道**のため、樹木が道路に大きく枝を広げている所があり、緊急時にトラック通行の妨げになるとして車道の両サイド5m幅で伐木することになったものです。2015年度の伐木予定が1年繰り延べとなり、2016年度に伐採されることになりました。4月に淀川河川事務所に行きましたが、詳細計画ができた時点で相談したいとのことでした。

5. 次回6月5日(日)野鳥の子供たち

メインになります。

今回は6月5日、牧野で生まれた野鳥の子供たちの観察が

